

2016 年度

ボートレースチャリティ基金協力報告



ボートレースチャリティ基金委員会

選手会口 ～ボートレーサーの皆さまからのご寄附～

ボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付は、ハンセン病回復者およびその子どもたちに対する教育支援に使われています。

<2003 年度から 2015 年度まで>

インド・ミャンマー・ネパール・中国・フィリピン・インドネシア・ベトナムの7カ国で、延べ5,378人の小学生から大学生までの子ども達が学校に通うことが出来ました。

国	人数	実施年次	支援額
インド	2,590	2003-2005, 2009-2013	¥19,413,808
ミャンマー	777	2003-2005	¥2,739,200
ネパール	475	2003-2005, 2007- 2009, 2014-2015	¥4,778,886
中国	923	2003-2005, 2010-2012	¥5,609,876
フィリピン	510	2009-2015	¥10,222,620
インドネシア	63	2010, 2013-2015	¥4,160,011
ベトナム	40	2011-2012, 2014-2015	¥1,958,471
計	5,378		¥48,882,872

<2016 年度>

2014 年度にスタートしたインドネシア・ネパール・フィリピン・ベトナムの高等教育（1. 大学、2. 就職に結びつく資格の取れる高等専門学校）を中心とした教育支援「日本ボートレーサー奨学金」を通じて、総計 40 人が高等教育を受けることが出来ました。将来確実に就職ができ、回復者とその家族が一般社会で力をつけることが可能な支援を目指し、2017 年度にも引き続きインドネシア、ネパール、ベトナムの3か国の高等教育支援を実施します。（フィリピンは2014、2015の2年間に集中して支援をしてほしいという要請があったため、2015年度で終了）

国	人数	支援額
インドネシア	10 人	¥687,496
ネパール	15 人	¥1,418,301
フィリピン	0 人	¥0
ベトナム	15 人	¥711,871
計	40 人	¥2,817,668

<2016年度 支援詳細>

インドネシア

・東ジャワ州、南スラウェシ州の大学生、専門学校生、看護学生含め、合計10人の回復者とその子女への高等教育を支援しました。

第4次教育支援	(2014年10月承認)
支援実施予定年度	2014-2017
2016年度支援額	¥687,496
2017年度支援予定額	¥1,000,000

ネパール

・ハンセン病回復者及びその子女で医療補助師養成コース(18カ月)、補助看護助産師養成コース(18カ月)医療研究技術者養成コース(18カ月)に通う合計15人を支援しました。

第4次教育支援	(2014年10月承認)
支援実施予定年度	2014-2017
2016年度支援額	¥1,418,301
2017年度支援予定額	- *2016年度に送付済

ベトナム

・定着村に住む回復者の子女15人に対する高等教育支援(ビジネス経営、情報テクノロジー、医学、理学療法など)を行いました。

第4次教育支援	(2014年10月承認)
支援実施予定年度	2014-2017
2016年度支援額	¥711,871
2017年度支援予定額	¥800,000



ネパール人奨学生ビニータさん

<2002 年度～2016 年度 選手会口 収支報告書>

	ご寄付額	支出額	支出予定額	残額 (予定)
第 1 次支援分 (2002 年) +ネパール追加 3 年支援分	¥15,310,000	¥14,952,585	-	¥357,415
第 2 次支援分 (2008 年)	¥12,585,965	¥11,947,129	-	¥638,836
第 3 次支援分 (2010 年)	¥11,908,005	¥10,663,364	-	¥1,244,641
第 4 次支援分 (2014 年)	¥15,000,000	¥14,137,462	¥1,800,000	¥-1,337,462*
合計	¥54,803,970	¥ 51,700,540	¥1,800,000	¥1,303,430

*第 4 次支援分は、現地レート変動等の影響により、支出額がご寄付額を上回る見込みがあります。

*** Phekan Das さん * (ネパール)**



ダスさんは現在 20 歳です。彼は 8 歳の時にハンセン病を発症しました。両親は幼いころに亡くなっているため、お兄さんと 2 人で暮らしていました。

彼の転機となったのは「セルフヘルプグループ」と呼ばれる自助グループ（生活上の困難や問題を持つ人々が専門家から独立し、自発的に集まり自己の体験や感情を共有し、情報や知識の交換や学習を行い、社会や政治への働きかけを行う活動）でポジションを与えられたことでした。自分でもできることがあるのだと思い始めたところに、選手会の皆さまからの支援の話を聞きました。

ラボアシスタントの資格を取るために学校に通い、現在、ジャナクプールの病院で医療検査技師のアシスタントとして働いています。

以前は自分に自信がなく、日雇い労働で生活をしており特に目標もありませんでした。いまは学歴、仕事があり、何より彼が嬉しいと思っているのは「人を助ける仕事に就けたこと」だと言っています。

村の人々も彼のことを認めてくれており、日本ポートルレーサー奨学金がなければ今のよう自立し安定した生活はできなかつたと、選手の皆さまに心から感謝しています。

チャリティオークション他口

<2002 年度から 2015 年度>

中国、インド、ネパール、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、インドネシア、ガーナ、ナイジェリアで、ハンセン病制圧活動、生活環境向上、回復者の経済的・社会的自立をめざした活動、教育の支援をすることができました。

<2016 年度> 支援総額 ￥2,701,648

インド、インドネシア、中国の3カ国で、ワークキャンプへの支援を含む生活環境向上のための支援と経済自立支援を行いました。

* 生活環境向上支援 * ￥523,725

- インド ウェストベンガル州マニプール及びビシュナプールハンセン病コロニーでのワークキャンプ計3回
- インドネシア 東ジャワ州ンガゲット村及び中央ジャワ州ドロノジョ村でのワークキャンプ計2回

* 経済自立支援 * ￥2,177,923

- 中国 広東省と雲南省の回復者村における経済自立支援



養蜂を学ぶ村人たち（中国）

〈2016年度 支援詳細〉

* 生活環境向上支援 *

インド

第7期委員会（2014年10月承認）	
支援詳細	NPO法人わびねすが、ウェストベンガル州マニプールハンセン病コロニー（9月、2～3月）、同州ビシュナプールハンセン病コロニー（9月）でのワークキャンプ計3回を実施し、屋根の修繕や井戸周辺の舗装、井戸の建設などコロニー内の衛生環境改善を行った。
支援額	¥400,000



井戸周辺の整備



崩壊した屋根の修復作業

インドネシア

第7期委員会（2014年10月承認）	
支援詳細	ワークキャンプ団体 Leprosy Care Community (LCC) が、東ジャワ州ンガゲット村と、中央ジャワ州ドロノジョ村にて、いずれも8月にワークキャンプを実施した。村の環境改善のため、排水設備の設置や、堤防や貯水池の建設を行い、ワークキャンプ後には啓発活動として活動内容を伝えるため写真展をインドネシア大学（ジャカルタ）にて開催した。
支援額	¥123,725



ワークキャンプの様子



写真展の様子

*** 経済自立支援 ***

中国

第7期委員会（2014年10月承認）	
支援詳細	広東省と雲南省の回復者村で、経済的自立のためのプーアール茶、はちみつ、干しきのこ、ウォールナッツなどの製造・販売支援を行った。品質向上のための技術指導や、マーケティングの勉強会、製品のパンフレット制作、販路確保のためのオンラインショップのオープンなどを通し、回復者の方々が自らの力で利益を生み出せる体制作りを着実に進めた。
支援額	¥ 2,177,923



蜂蜜の製造・販売



マーケティングの勉強会の様子

<2017年度チャリティオークション他口 事業実施状況>

2017年度は、2016年度の委員会でご承認頂いた資金から、以下の支援を実施しています

<第8回委員会承認 ハンセン病対策・尊厳回復緊急支援（900万円）>

実施国	事業概要	予算
ガーナ	家屋建築（5軒）	¥5,000,000
フィリピン	救急船補助ボート	¥2,900,000
インド	ワークキャンプによる家屋修繕、井戸整備、自助グループ作りなど	¥450,000
インドネシア	ワークキャンプによる公衆浴場整備、更衣室建設、道路舗装など	¥200,000
合計支出額		¥8,550,000

* NPO 法人 わびねす *

NPO 法人わびねすは、日本人学生が設立したワークキャンプ運営団体「namaste!」が前身で、2011年からインドのハンセン病コロニー回復村でワークキャンプを行ってきました。チャリティオークション他口からは、2012年から毎年、ワークキャンプに使用する資材の支援を行っています。2016年にはNPO法人格を取得し、「すべての人々が、いきいきわくわく暮らすことのできる社会を創造する」を目標に、ウェストベンガル州のマニプールとビシュナプール、チャクドラの3つのコロニーで、ワークキャンプに加え、教育や就労支援など、ハンセン病回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進する活動を行っています。

NPO 法人わびねす代表理事 梶田恵理子さん

現在わびねすは設立6年目を迎え、少しずつではあるものの、コロニーの人々の被差別意識や周囲の人々の差別意識に変化をもたらすことができってきました。一例をお話すると、コロニーの若者が、日本人学生のコロニーでの直向きの活動に影響され、拙い英語で活動に協力してくれるようになりました。その若者たちは、もっと日本人と話がしたいという気持ちから英語の勉強を自主的に行うようになり、更には、自分たちの将来についても考えるようになりました。そして、その姿を見た日本人学生も感化され、彼らの夢を叶える手助けとして彼らの大学進学費用を集める進学応援プロジェクトを始動させました。今、その若者たちは、大学に通いながら自身の夢のために勉学に励み、また、コロニーをより良くするためにコロニーの人々と話し合いの場を設けるなど、自発的な活動を始めるようになりました。更に、その姿を見てコロニーの他の人々も影響を受け、コロニーを清潔に保つためにみんなでゴミ拾いをするなど、行動が変化しつつあります。

近隣住民にも変化が起きつつあります。ワークキャンプを通して日本人学生と村人が楽しく過ごす姿を見たり、就労支援事業を通して関わるようになった村人についてよく知ることによって、近隣住民の差別意識が解消され、その結果、回復者の女性が近隣住民の自宅の清掃の仕事を獲得など、徐々にではありますが成果が出つつあります。

コロニーの人々と私達日本人の関わりは、とても小さなものです。しかし、その小さな関係が、その人の人生を変え、それが周りに伝播し、それが地域に伝播して、最終的には社会全体を変えていく力を持っているのです。差別問題は人の心の問題です。見えづらからこそ、実直に一人一人と向き合い続ける必要があります。

これからも、ハンセン病回復者を含むあらゆる人々がいきいきわくわく生きることのできる社会の構築を目指して邁進して参ります。



〈2002年度～2016年度 チャリティオークション他口 支出報告〉

2001年～2017年9月末までに、総額 108,680,063円 のご寄付を頂きました。

2016年度末（2017年3月末）までの総支出額(94,677,529円)と支出予定/検討額（¥8,550,000）の合計は 103,227,529円 で、残額は 5,452,534円 となります。

承認委員会 (委員会実施年)	活動実施年度	承認額 (予算)	支出額	支出 予定額	残額	次年度繰越	繰越後 残高累計
第1期 (2002)	2002-2003	¥10,000,000	¥10,000,000	-	¥0	-	¥0
第2期 (2004)	2004-2010	¥16,000,000	¥14,688,352	-	¥1,311,648	-	¥1,311,648
第3期 (2006)	2006-2010	¥10,000,000	¥8,829,808	-	¥1,170,192	-	¥2,481,840
第4期 (2008)	2008-2013	¥16,000,000	¥14,288,688	-	¥1,711,312	¥2,000,000	¥2,193,152
第5期 (2010)	2010-2013	¥14,000,000	¥12,436,871	-	¥1,563,129	¥2,000,000	¥1,756,281
第6期 (2012)	2013-2015	¥30,000,000	¥27,002,616	-	¥2,997,384	¥4,500,000	¥253,665
第7期 (2014)	2015-2016	¥8,500,000	¥7,431,194	-	¥1,068,806	¥715,041	¥607,430
第8期 (2016)	2017-2018	¥9,000,000	-	¥8,550,000	-	-	-
合計			¥94,677,529	¥8,550,000	-	-	-

